



【巻頭言】 「Web 会報」「伝える」から「動かす」へ今後の発展に向けて



千葉県支部 副支部長
保坂俊雄

「Web 会報」第2号の発刊にあたり、今後に向けて思うことを申し上げます。早いもので、千葉県支部の副支部長兼企画委員長の任を受けて以来、4年目になりました。CPDの実施推進を通してニーズに合った企画を心掛けて、会員の参加を促す活動をしてまいりました。

今、改めて問う、支部会報誌の使命。多くの会員に「伝える」から、多くの会員の参加活動を促し「動かす」ための親和性を意識した情報発信こそ、会報誌の重要な使命と考えます。また、会員のみなさんから忌憚のないご意見を寄せていただければ幸いです。

会報、第2号は新たに合格した一次、二次試験合格者の紹介を掲載しています。

若い人が技術士活動に加わってくれることを期待しています。

ベテランも若い技術士の方々も「生涯青春、生涯現役を目指して社会貢献に活躍」される事を期待します。

“青春とは心の若さである 信念と希望にあふれ勇気にみちて日に新たな活動を続けるかぎり 青春は永遠にその人のものである” この言葉は経営者、松下幸之助が座右の銘としていたものだそうです。

千葉県支部の発展のため、会員の皆様には、ご活躍に邁進されるとともに、支部の諸活動にご参加いただき、ご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

(日本技術士会千葉県支部 副支部長 保坂俊雄)

【新合格者紹介】昨年度の一次・二次試験合格者の自己紹介コーナーです（五十音順）

【一次試験合格 機械部門 秋元昂】



秋元昂

今回機械部門一次試験に合格した秋元昂です。現在、東京大学大学院の物性研究所(柏キャンパス)で超高磁場の研究をしている修士課程1年目の学生です。

試験を受けるきっかけは技術士である父の勧めでした。私は物理専攻なので受験する分野で悩みましたが、物理と数学が活かせるので機械を選びました。

大学での研究活動が第一優先ではありますが、将来二次試験に合格したら、独立技術士として活動してみたいと考えています。

今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

(注:秋元様は現時点で日本技術士会に入会されていませんが、新規合格者として掲載しています)

【一次試験合格 機械部門 井下田吉男】



井下田吉男

ALSOKの井下田と申します。昨年度の技術士一次試験(機械部門)に合格し、修習技術者として技術士を目指しています。

技術の道に入るきっかけ

まず、工学部進学のかっけは幼少期にアニメやSFに出てくるようなロボットへの憧れを持ったことです。憧れから千葉工業大学の未来ロボティクス学科に進学し、恩師である太田教授の指導により「ロボット技術」の面白さを知りました。また、学生時代は多脚歩行ロボットについて学び、ローラースケートするロボットの研究を行いました。

技術士受験のかっけ

技術士という言葉を知るきっかけは大学で受講した講義での紹介です。この時、就職した際には技術士の資格を取得しようと思いました。

技術士を受験して良かったこと

様々な分野の方々と話す機会を得たことです。機械部会だけでなく、千葉県支部やIT21の会など部門を越えた交流の場にて見聞を広めることができます。

【二次試験合格 衛生工学部門 太田望斗】



太田望斗

平成26年度試験の合格で技術士となりました太田望斗です。

自己紹介ということで、衛生工学部門(廃棄物管理)の技術士になるまでの道のりを振り返ってみます。

始まりは「スチールウール」

中学生のとき、「スチールウールを燃やす」実験がありました。スチールウールの質量が増えることが不思議で「化学」に興味を持ちました。

「環境分析技術」、「公害防止技術」との出会い

高校2年生のときに参加した「埼玉県未来の科学技術者育成事業」で、化学の知識を用いて環境の今を知る「環境分析技術」に興味を持ちました。その後、専門学校へ進学し、「環境分析技術」と「公害防止技術」について学びました。

「ごみ処理」との出会い

卒業後は環境分析の仕事に就きましたが、退職。2回目の転職で「ごみ処理」の仕事に出会いました。

そして「技術士」へ

「ごみ処理」は「化学」や「公害防止技術」に関連する部分が多く、そこから「ごみ処理技術」について理解を深め、業務経験を積むことで「技術士」となりました。

【二次試験合格 機械部門 小川博志】



小川博志

はじめまして。今春に技術士(機械部門)に合格した小川博志です。現在は東京電力グループ会社の企業内技術士として、原子力発電所の安全性向上に関わる設備対応等の検討業務に従事しております。

技術の道へ

幼少の頃から物作りが好きで、特にプラモデルは戦闘機、戦車、軍艦などを自称プロ級の腕で作り上げジオラマ風に仕立てた写真を撮影して楽しんでいました。また、大空に憧れ、自分の手で航空機を作りたいと思っていましたが、大学で構造物の数値シミュレーションの魅力に触れ、業界は違えど数値解析と物作りに関わることができる原子力業界に入り、技術の道を進み始めました。

技術士受験のきっかけ

大学卒業後、社会人としてまた技術者として20数年が経ち、自分のキャリアについて見つめ直したとき、業務経験はそこそこ列挙できるのですが、それらを代筆できる何かが足りないと感じました。「技術士」は以前から知っていましたが、かなりのベテランでないと取得が難しい資格だと漠然と思っていました。しかし、実際に試験内容等を調べてみると「これは行ける!」と確信が持てたことが受験のきっかけです。それともう一つ、自部門の若手技術者のロールモデルの一つになればとの思いもありました。現在担当している業務が自身の技術力向上に繋がり、技術士資格取得の礎にできることを自ら示す必要があると思ったからです。

今後の抱負

技術士は数ある資格の一つに過ぎませんが、国家認定の「士業」の資格です。技術士の肩書きが付いたことにより、以前に比べ名刺をお渡しする際の重みが増えたと感じています。特に自分が今後提供していく技術に対する責任の重さからです。その一方で、これまでの企業の枠を超えた新たな出会いを大切にしていって幅広い人脈作りをしたいと思っています。

今後は、電力事業者の一員として皆様に原子力発電に対するご理解を頂けるよう技術面で貢献していきたいと考えております。また、生涯現役を目指しております。

【二次試験合格 経営工学部門 門田恭明】



門田恭明

昨年度の技術士二次試験に合格し、平成 27 年 4 月に技術士(経営工学部門)になりました門田と申します。技術士受験のきっかけと合格後の抱負を紹介させていただきます。

技術士受験のきっかけ

学生時代から、テレビ等で飢餓で苦しむアフリカの子供の映像を見る度に、この理不尽を何とかしたい、という思いを持つようになっていました。ある時カンボジアの空港で、『The Hungry Man』(著 Oren Ginzburg)という支援のあり方を描いた絵本に出会った事により、漠然としていた思いを具体的なビジョンに変える事ができ、それを実現する手段として技術士を目指すようになりました。

合格後の抱負

これまで 10 年間、食品企業にて容器包装の開発を行ってきましたが、私が培ってきた技術・経験は断片的で、まだまだ量・質ともに不十分です。今後、業務や継続研鑽により技術・経験に磨きをかけるとともに、人のつながりを育て、将来、海外への技術支援に携わっていきたいと考えています。

【一次試験合格 電気・電子部門 庄野仁康】



庄野仁康

この度、電気・電子部門の技術士第一次試験を突破致しました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、音声データを取り扱う通信装置の設計開発に従事しております。設計品質の確保向上に重きを置き、安定した通信サービスの実現のために常に研鑽を求められる業務であり、非常に刺激的で、やりがいがあります。

現在、技術士を目指すための学習として、修習技術者の身ではありますが、千葉県支部主催の CPD 講演会にて、諸先輩方の知見をいただいております。「技術士に求められる資質」「問題解決のためのアプローチ」などを事例から学習できることは、大変貴重なことだと実感しております。

今は未だ、思い描く技術士の姿と現在の自分とのギャップは大きなものと感じておりますが、二次試験合格に向けて研鑽を続け、いずれは技術士として、所属組織、ひいては社会が直面する技術的課題に真っ向から取り組み、これを解決に導けるようになりたいと考えております。

(注：庄野様は現時点で日本技術士会に入会されていませんが、新規合格者として掲載しています)

【二次試験合格 機械部門 中島義人】



中島義人

はじめまして。この度平成 26 年度の二次試験に合格し技術士登録(機械部門)を行った中島義人と申します。現在、企業内技術士として登録し業務を行っております。

入社後研究所に所属していたのですが、恥ずかしながら技術士の存在はそれまで全く知りませんでした。10 年ほど前に 2 年間仙台に出向するチャンスがあり、その際に様々なコンサルタント事務所の技術士の方々と仕事をし、技術士の仕事に対する先見性や確固たる理念に感銘を受けました。

その後、6 年間同社のブラジル・サンパウロに駐在し、設計・サービスのマネージメント業務を行いました。技術営業やプロジェクトやトラブルなどで客と話をする機会も多く、その際、それまで日本で取得していた私の資格の知名度は全くなく、言葉のハンデもある中、技術力で客を納得させるしか手がなく、何度も歯がゆい目にありました。そのためインパクトのある資格を持っていれば、海外のエンジニアや客との話し合いもスムーズに進むと思い技術士受験を決意しました。

今後は慢心することなく技術士倫理を常に意識し、自己研鑽に努め、国際的にインパクトのある APEC エンジニアを取得して、海外で活躍したいと思っています。

【二次試験合格 情報工学部門 平田俊明】



平田俊明

私は、電機メーカーで、通信制御ソフトウェアの研究開発を皮切りに、ネットワーク・システム管理ソフトウェアの研究開発、ストレージソフトウェア製品のビジネス開発、試験・評価等、一貫してソフトウェア関連業務に従事してまいりました。

50歳のころ「生涯現役」を意識するようになり、技術士試験の受験を決意、3年をかけて今年の春に技術士資格を取得しました。以来、千葉県支部や部会の行事に参加させていただき、様々な分野・立場でご活躍されている方々とお会いすることで大いに触発されています。

情報分野も他の分野との連携が欠かせなくなっています。今後とも、皆様との関係を大切に、これまでの知識や経験を基に技術開発を通して社会に貢献できるように最新の情報をキャッチアップ、自身の技量に磨きをかけていきたいと考えています。

【二次試験合格 機械部門 紅谷喜之】



紅谷喜之

本年3月登録の新米技術士です。技術士になって様々な変化があった中で、資格というものに対する考え方が変わったというお話をさせていただきます。

これまで資格はすべて自己啓発を目的に取得してきました。実を申しますと技術士についても最初のきっかけは同じでした。

しかし試験勉強が進み、技術士制度制定の経緯や、社会的な役割などを理解するにつれ、「自分の満足のためではなく、公共の利益ために資格を活かさなければ」という考えを持つようになりました(本来これが先であるべきだと思いますが)。

そして実践のために登録以来、「機械部門の技術士です。特に材料力学が専門です」と勤務先内外で積極的にアピールしています。効果として社内では、関連分野の問い合わせが倍増しました。今はもっと社会のお役に立てればと、能力開発とプロモーション方法の模索をしています。

もし将来ご縁がありました際には、どうぞよろしくお願いいたします。

【名刺管理その1 私の名刺管理術 : 川畑真一(情報工学部門)】

コミュニケーションが大事なものは、ビジネス、日常生活でも同じです。

全く知らない方とコミュニケーションを図るのは大変ですが、一回でも名刺を交わしていれば、「〇〇の折にお目にかかった××です。」

と相手の顔を覚えていなくとも会話の糸口を掴むことができます。

しかし、このいただいた名刺の管理が大変とお考えの方が多いたと思います。

管理で何が大変か、それは、名刺の検索です。名前から、会社名から、名刺を交わした場面からといろいろ名刺を検索しやすく整理するのに手間と知恵と場合によっては文房具を要していました。

ところが、名刺は大変整理しやすくできているのをご存知でしょうか。

まず、大きさが決まっています。変形のものもありますがビジネスで交わす名刺は標準の91mm×55mmが殆どです。

項目は「会社」「部署」「役職」「氏名」「電話番号」「ファックス番号」「メールアドレス」「住所」などが必ず書いてあります。

こんなに標準化されているのですから名刺の管理は簡単なはずですよ。

では、私の名刺管理方法をご紹介します。

いただいた名刺に1から順番に番号を付け、番号順に空き箱に入れておきます。

その番号と、上記の項目を名刺1枚を1行として名刺の番号と共に表計算ソフトに入れておけば良いのです。表計算ソフトの検索機能を用いて容易に目的の名刺を探せます。

「いやいや、名刺の項目を表計算ソフトに入れるのに手間がかかるのだ！」

とおっしゃる方は多いでしょう。

そこで、秘訣をお教えします。

この項目を全部入れることはありません。

最低限、名刺の番号、会社名と名前、そしていただいた日付(これが秘訣！)を入力しておけば名刺を検索できます。

検索できれば、他の情報は全て名刺に書いてあります。手紙を出すわけでもないのに、住所を入力し、メールを出す予定もないのにメールアドレスを入力することはありません。

日付は大事です。日付をキーに検索するとその時同席した人の名刺が分るからです。〇〇さんを覚えていなくとも、△△さんと同じ日付で会っていれば同じ会議でお会いしたはずと想像できます。

「〇〇さん、△△さんと同席をされていませんか？」

と話のきっかけを作ることができます。

また、過去の予定表、日記からどんな状況で名刺を交わしたか日付で調べることもできますし、逆にあの会

合で会った人を日付から調べることができます。

いろんな名刺管理のソフトがありますが、表計算ソフトでも簡単にできますのでやってみませんか？
因みに私はこのやり方で 11113 人の方の名刺を持っています。言い換えると 11113 人 + α (名刺交換無しでも付き合っている人) が私の友達だと勝手に思っています。日本の人口の 0.01% 弱が私の友達です。

【名刺管理その2 独立技術士の名刺整理、活用方法 : 秋元英郎(化学部門)】

私は年間 1000 枚以上の名刺をもらうが、名刺の管理が下手で、すぐに未整理の名刺が山になる。積まれた名刺の山を見ると憂鬱になるので、ますます名刺に目を向けないという悪循環でした。
いろいろと試行錯誤した結果、テレビ CM の「早くに言ってよー」で有名な sansan の名刺管理システムを使っています。年間 30 万円以上かかる高額なサービスではありますが、払う価値は十分にあります。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZkLqWeky5ml>

それさあ、早くいってよ

このサービスでは専用名刺スキャナーが貸与され、スキャンした名刺はオペレーターが手入力でデータベース化してくれます。同姓同名のチェックができ、他人、兼務、履歴等の整理が可能で、新聞の人事異動情報も反映されます。データはダウンロードできて、アウトLOOK等のメールソフトに転送も可能です。

このサービスを導入してからは名刺の山から解放されています。うまい名刺管理のコツはタグ付け。特に学会や展示会のように一度に多くの人に会った時には、そのイベント名のタグをつけておくと後からの検索に有効です。

古い名刺はどうするかという課題もありましたが、私の場合は手元に会った名刺(おそらく 2007 年以降)を全てスキャンして取り込みました。古い名刺でもメルマガを送ったら返事が来る事もあるので驚きます。

名刺がたくさんになったら、是非メルマガを出すと良いですね。私の名刺管理サービス(sansan)にはメルマガ配信サービスが標準でついているので、これを使うと相手先の会社名や氏名をメール文面やタイトルに差し込むことが可能になり、開封率が圧倒的に高くなります。

ちなみに、最近私が送った一括配信メールでは、総配信数約 2500 件に対し、200 人以上が返信してくれて、600 人以上がホームページのリンクをクリックしてくれました。

結局大切なことは名刺をどのように管理するのではなく、どのように活用するのかにあります。名刺とメール一括配信で感じたことは「積極的に動けば何か反応があるものだ。」です。

【アクティブ 45+】 仕事以外の分野で若者に負けない活発な活動をしている会員を紹介するコーナーです。

アクティブ 45+

この企画は仕事だけではなく、いろいろな活動をしている技術士を紹介するコーナーです。45歳は「青年委員会」の参加資格が無くなる年齢ですが、青年の心（時として少年の心）を持ち続けることは、仕事の質を高めるためにも重要なことです。

私の山登り

山本陽一（化学部門・衛生工学部門・総合技術監理部門）

私は高校 2 年の時に山岳部に入り山登りを始めた。大学ではワンダーフォーゲル部、会社に入ってから山岳部と、一番の趣味は常に山登りであった。タイトルの「45+」の意味するところは、45 歳超ということなのだろうが、私の山歴は 45 年超いや 50 年超である。今回は私が山に登る際の「方針」を紹介する。

よく山登りが趣味だというと、日本百名山は全山制覇したかという質問を受ける。そもそも私は山を制覇するというような不遜な考えは持っていない。積極的に百名山を目指していないので登頂したのは 87 座である。かの有名な「日本百名山」は著者である深田久弥が彼の個人的見解で選んだものであり、100 のうち 70~80 は万人が名山と認めるものだが、残りについては選り好みがあるはずである。また、登頂だけを目的とした登山は嫌いである。登りと下りはできるだけ違うコースを取り、その山とできるだけ広く深く接するようにしている。



御嶽山



雲取山

数十年は、できるだけ静かな山に行くようにしている。深田久弥の言うところの「避衆登山」を目指すようになった。避衆登山とは文字通り群衆を避けて静かな山に行くという意味だが、私の場合はもっと極端で、山中で全く人に出会わないということを目指して山に行くことがある。しかしこの目標は自分ではどうしようもないもので、他人が登りそうもない山と時期を選ぶのが要点である。この登山形態は裏を返せばいざというときは大変危険である。従って、道に迷わないようにする、迷ったと思ったら必ず道がはっきりしている所まで戻る、怪

我をしないように細心の注意を払う、天気予報をこまめに調べて悪天時には登らない、などの基本動作をきちんと守るようにしている。

実際の避衆登山記録を紹介すると、単独行では今年9月の南アルプス策(ざる)ヶ岳山行で72時間40分、二人山行では2012年9月に日高山脈の幌尻(ぼろしり)岳に登った時の115時間余他の登山者に出会わなかったというのが最長である。



北アルプス蓮華岳



上越国境丹後山

山登りも実は PDCA が重要な行為である。誰かの計画に従って山に行き帰って来ておしまいと言う人が意外と多いかも知れないが、私の場合は計画(準備)が山行の成否を決めると言っても過言ではない。地図、交通機関の時刻表、ガイドブックが三種の神器である。最近ではインターネットで資料を入手することが多いが、これらを駆使して行動計画を立て、装備表、食料表を作り、天気予報を調べる。帰宅後は装備の手入れの後、行動記録・写真の整理、反省点のまとめ、山仲間への報告などで山行を締めくくる。もう一つ重要なのは体力で、普段から走り、歩くことでその維持に努めている。

【編集後記】

ようやく第2号を発行する事ができました。何とか年に2回は発行したいと考えています。

この会報はPDF版として千葉県支部の会員に届けられます。この会報をきっかけにして千葉県支部のメンバーとともに活動しようとする方が一人でも増えてくれれば良いと考えています。

アクティブ45+は2回続けて60代の方に登場していただきました。今後はもう少し若い方にも登場していただくよう、アンテナを広げて人選していきます。

第1号をご覧になりたい方は日本技術士会のホームページから千葉県支部に入って下さい。

次のリンクからも直接アクセスできます。

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/chiba/topics/003/attached/attach_3598_1.pdf

(千葉県支部幹事 広報委員 秋元英郎)



日本技術士会千葉県支部会報 Vol.2 (2015)

編集人 日本技術士会千葉県支部広報委員会
委員長 川畑真一

発行人 支部長 松井隆

発行日 2015年11月15日

発行所 公益社団法人 日本技術士会千葉県支部

〒260-0013 千葉市中央区中央 2-7-10 シャンボール千葉中央 2階 206号

[日本技術士会 千葉県支部の Web サイト](http://www.engineer.or.jp/c_shibu/chiba/)

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/chiba/